

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成 24 年 7 月 11 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771601974		
法人名	社会福祉法人こぼと会		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
サービス種類	・認知症対応型共同生活介護 ・小規模多機能型居宅介護事業所 ・介護予防認知症対応型共同生活介護 ・介護予防小規模多機能型居宅介護事業所		
所在地	大阪府吹田市山田東2丁目31-5		
自己評価作成日	平成24年5月15日	評価結果市町村受理日	平成24年7月23日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	tp://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特別非営利法人 評価機関 あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成24年6月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●家庭的な雰囲気の中で 心と心が通い合うケアをめざし
「たとえ物忘れがあっても身体が不自由になっても、人として尊重され、その人らしいくらしが保障されるホームでありたい」をたんぽぽの運営理念とし、家庭的な雰囲気の中で、プライバシー・プライベートを大切にしながら、ホームの主人公である入居者のくらしをお手伝いします。
【運営理念の具体化】
・入居者を生活主体者として尊重し、そのひとらしいくらしの実現に向けて援助を行います。
・地域の人々に支えられ、自由に出入りできるよう開放的なホーム運営を行います。
・入居者、家族、職員、地域住民の声を大切にした運営を行います。
・地域高齢者のくらしの問題と向かい合い、安心できるまちづくりを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「グループホームたんぽぽ」は大阪モノレール線・万博公園駅より徒歩12分の緑の多い自然に恵まれた環境の中にある三階建てのサービス併設型の3ユニットを有する事業所である。「いつでも、どんな時にも、人として尊重され、その人の想いを大切にしたい暮らしが保障されるホームでありたい」という理念のもと、利用者の生活習慣やプライバシー、その時々思い、気持ちに寄り添い、やりたいことを気の向くままに、生きることが喜びとなる支援を心がけ、食事や入浴時間はできるだけ利用者の希望に添うように、また重度化した利用者・家族が事業所での看取りを望む方は看取りまで支援が行えるように努めている。この1年間で4名の方の看取りを行った。家族が自主的に発足した「家族会」があり運営推進会議への参加や家族会主催の役所の介護保険課職員との懇談会の開催や「たんぽぽだより」の原稿執筆等いろいろな活動を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価（せせらぎ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針・総括会議および上半期の中間総括を通じて、ホームとしての理念の理解を深めそれに基づいた支援・取り組みが出来るよう努めている。また、理念に基づく運営方針に「地域の人々に支えられ、自由に出入りできる開放的なホーム運営を行います」「地域高齢者の生活問題と向かい合い、安心できるづくりを目指します」と挙げ、実践に努めている。	「いつでも、どんな時にも、人として尊重され、その人の想いを大切にしたい暮らしが保障されるホームでありたい。」を理念に掲げ、新人研修・フロア会議・全体研修会議等を通じて職員に理念の理解を深め、理念に基づいた支援や取り組みが浸透するように努めている。事業所一階の入り口に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、自治会運動会、伊射奈岐神社秋祭りなどに出かけています。また、公民館でのティーサロンや催し物に参加している。	地域の敬老会や運動会・近くの神社のお祭り等への参加や、ボランティアのコーラス発表会を聞きに行っている。また、事業所主催の花見・夕涼み会・忘年会に地域の方の参加を呼びかけ、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	吹田市の社保協の地域活動にも参加し、高齢者の生活問題解決に向けて吹田市への要望書などに取り組んでいる。また地域住民の方から、講演会依頼や、施設見学要望がある時には、進んで引き受けるようホームとして取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	吹田市コミュニティー協議会会長、福祉委員シルバーアドバイザー、PTA会長、公民館長、保護司、社会福祉協議会CSW、家族の方々の理解と協力を得て、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。また、防災訓練等の協力依頼を運営推進会議を通じて活用しサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一回運営推進会議を開催している。メンバーはコミュニティー協議会会長・シルバーアドバイザー・PTA会長・公民館長・社会福祉協議会コミュニティーソーシャルワーカー・保護司・各フロアの家族代表の方々である。会議では事業所の状況説明や防災訓練の協力依頼等をしている。議事録はレジメにメモをしている。	色々なメンバーが出席し、地域と密接な関係を築くのに有用な会議を開催しているため、議事録を作成し、職員に回覧し共有することが望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	吹田市のグループホーム、特定施設と介護保険課職員による部会を設け、サービスの質の向上に向けて様々なテーマで意見交換、学習会を行っている。また、介護保険制度展示会を開催して事業所の内容、役割を来場者に説明している。	市の「グループホーム・特定施設部会」に所属し毎月の学習会に出席したり、市主催の役所ロビーで行なわれる「介護保険制度展示会」に参加したりと市町村との連携に努めている。また、家族会主催の役所の介護保険課職員との懇談会の仲立ちをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価（せせらぎ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	合同フロア会議等、身体拘束をしないケアの実践について学ぶ機会をつくり、実践に努めている。	「人として尊重される」という理念に基づき身体拘束をしないケアの研修を行い実践に努めている。玄関は利用者の安全確保のためやむを得ず施錠しているが、事業所内は1階から3階まで自由に行き来できるようにしている。外出をしたい利用者には職員が付き添い外出を支援している。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念において、虐待はあってはならないものと位置づけ、理念に基づいた支援を目指している。また、定期的な勉強会を通して学んだり、日頃のケアの中で見過ごされる事が絶対ないように啓発に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性が生じた時には関係者と話し合い、活用できるよう支援している。また学ぶ機会も大切にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づいて説明を行い、質問、要望などに応えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望が日頃から話易い関係に努め、必要が生じた時の連絡先を表示するなどして、健全な運営の反映に努めている。また、介護相談員の訪問を受け、利用者の思いを引き出す協力を得ている。提案、アドバイスを受けたなかから実践にむけて取り組んでいる。	自主的に発足した家族会があり、定期的に家族会を開催、運営推進会議にも家族代表が参加しており、利用者・家族の意見や要望を伝える機会が多い。また、介護相談員が月に2回事業所を訪問し利用者の意向や思いを引き出す活動をし、その情報を記録している。職員はその情報を共有し支援に活かすように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	毎月のフロア会議、3か月に1回の全体会議、2ヶ月に1回の常勤会議を開き、その場で意見や提案を出してもらい話し合いを通し、日常の運営に反映されるよう努めている。	毎月のフロア会議等の定例会議だけでなく、管理者は日頃から声かけを行って話し易い機会を持っている。職員からの提案を受け、食事の調理の仕方や外出の支援方法の改善に活かしている。管理者は年に2回個人面談を行って職員の意見・提案を聞く機会をもっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価（せせらぎ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を開催し、仕事に対する思いや、提案、意見等を聞き取るにより努めている。年に一度は法人全体の取り組みとして職員に課題を課してレポート提出をしてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業前のオリエンテーションを実施し、ユニットだけに止まらず、事業所の一職員と位置づけ業務に入ってもらっている。また職員一人ひとりの働く姿勢や、実践に細かく目を向け、それに合わせて研修参加や学ぶ機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吹田市GH特定施設部会、吹田市地域ケア会議、21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会に所属し、会合、研修、交流会に参加している。老福連分科会では毎回レポート発表を行っている。また、交流の機会にはできるだけ参加しネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じてのサービス向上の取り組みに努める。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には管理者と現場主任が自宅を訪問し、聞き取りを行った上で、安心した生活を送って頂けるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	思いが十分伝えにくい本人の代弁者としての家族の要望にしっかり耳を傾け、本人・家族共に安心して暮らせる為の関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状態をしっかりアセスメントし、本人の要望を大切に必要なサービスとケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（せせらぎ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を奪わないよう配慮し、持てる力を活かせる場面作りに努めている。また、意思表示の困難な方は、表情や行動など観察し関わる中で、ご本人の立場に立った視点でケア内容を考えている。さらに、家事はスタッフだけが行うのではなく、入居者さんをお誘いし、共に行うよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時には、小さな事でもご家族に報告・連絡・相談を行い、職員だけの力では出来ないこと（例えば、入浴に応じて頂けない時など）は、ご家族の協力も得ている。日常のコミュニケーションを大切にすると共に、ご本人にとって良いケアとなるよう、ご家族と相談しながら行っている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で使用されていた家具をたんばぼでも使用し、住み慣れた自宅と雰囲気近づけられるよう努めたり、ご家族の面会やそれまでの友人関係が途切れないよう、面会を歓迎し、ゆっくりと過ごせる環境作りに努めている。また、ご家族の協力を得ながら、自宅に帰る機会や外出の機会を持てるよう配慮している。	家族の協力を得て、馴染みの理美容院の利用、墓参り等の外出支援を行っている。家族等の面会には時間制約を設けていない。利用者の希望で週に1回程度の外泊をしている人もいます。利用者が馴染みの人との関係を継続できるように、居室に電話を引いている利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	菜園や食事の準備、家事等を通して、入居者同士が関わるきっかけ作りを行っている。又、入居者同士の良好な関係作りのため、日々の様子を観察しながら食事席の配置などの検討をおこなっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族が訪ねて来て下さったり、別の施設に移られた方へは、時々職員が面会へいたり、何か相談があった場合には、必要に応じ、出来る限りの対応をさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（せせらぎ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接ご本人の思いを伝えて下さる方へは、出来る限り応えるよう努めている。思いを伝えられない方へは、日常の中での会話を大切に、何気ない一言などから思いをくみとれるよう配慮し、会話が困難な方へは、ご家族と相談したり、精神面・身体面など配慮し、思いをくみとれるよう努めている。また、センター方式シートを使用し、情報共有を行っている。	入居時に利用者や家族の思いや意向を聴き取り、日々の支援に活かしている。利用者との毎日のかわりや家族の面会時に得た情報は、その都度センター方式のシート及び個別ケアシート等に記録し、朝・夕のミーティングで職員に伝え共有するとともに、介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご本人やご家族から聞き取りを行うと共に、センター方式のシートを使用し、情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを使用し、情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式のD-1シートにてアセスメントを行い、カンファレンス・モニタリングを実施し、定期的にプラン更新を行っている。また、毎月1回のフロア会議にて個々のケアについての話し合いを行うと共に、毎日11時～カンファの時間を短時間だが設けるようにしている。必要に応じてご家族に情報収集や相談も行っている。	介護計画は、家族、介護支援専門員、介護主任の他、利用者の状態に応じ、看護師が加わり、話し合いの上で作成している。モニタリングは3ヶ月に1回行い、介護計画は6ヶ月に1回見直し、状態の変化に応じて随時見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、日々の様子や特記事項を記入し、ケア内容の変更については、カンファシートにまとめ、モニタリングを行っている。すべてのスタッフがケアの内容の変更が把握できるようにするため、変更の話し合いが行われた事を個人記録に記入、アンダーラインを敷き、詳しい内容についてはカンファシート閲覧していくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（せせらぎ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、家族の生活状況の把握にも努めながら、その時々ニーズにできるだけ合わせ、話し合いを通して柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に買い物や外食に出掛け、近隣の理美容室にも積極的に行くようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、ご家族、ご本人と相談しながら、昔からの馴染みのDr、事業所の提携している診療所のDrと自由に選択してもらっている。	利用者、家族等の希望するかかりつけ医での受診が基本であるが、現在全ての利用者は法人内の協力診療所から週1回の内科往診と協力歯科医から週2回の往診を受けている。通院介助は家族同行が原則であるが、車椅子移動等必要時には職員が同行している。受診記録は看護師が管理し、個別ケアシートに記録し、職員に申し送っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中にとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受	看護師の出勤している平日は朝の申し送りに加え、必要時に随時情報を伝え連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、こまめに面会に訪れ病院の看護師との情報交換を行ったり、ご家族との情報交換も行っている。また、退院時は事前に病院にて看護師との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての施設としての指針を、入居時にご説明し、サインを頂いている。また、体調面での変化が見られる場合は、早い段階から現状や今後考えられる症状をDrから直接ご家族へご説明し、その中で対応についての方針をご家族と共に考えている。	入居時に重度化や終末期の支援に関する事業所の方針を説明し同意を得ている。利用者の状態の変化に合わせて、かかりつけ医や近隣の医療機関の協力を得て、利用者、家族、看護師、職員等で話し合い情報・方針を共有し、利用者はもとより家族に満足していただけるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価（せせらぎ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員を対象に定期的に非難訓練を行い、安全に利用者の非難が出来る様努めている。また今年度は地域の消防担当者参加の訓練や家族会の協力を得ながら協力体制強化を行った。	夜間の想定も含めて、年2回定期的に利用者と職員で避難訓練を行っており、内1回は消防署も立ち会っている。災害時の連絡表を作成している。また、定期訓練とは別に地域の消防団との合同避難訓練を、近隣の利用者の家族の協力を得て行っている。2日分の水と食料の備蓄を行っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の理念に「いつでも、どんな時にも、人として尊重され、その人の想いを大切にしたい」と掲げ、日々の中で意識するよう努めている。また、中間統括・総括と年2回振り返りを行うなかで、意識の向上を図っている。	人として尊重され一人ひとりのプライバシーを大切に言葉掛けや丁寧な対応に心がけている。研修として「援助のチェックポイント」について採用オリエンテーション時と6ヶ月ごとに全職員で話し合い・確認を行っている。個人記録類は鍵のかかる机の引き出しに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パーソン・センタード・ケアに努めること、また、日々の入居者との関わりの中で、ご本人の思いや希望を言いやすいような、関係作りを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調などに配慮し、出来る限り入居者の希望に添った支援を行っている。また、入居者が希望を言いやすいような関係作り、入居者の思いをくみ取る姿勢を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（せせらぎ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の生活の中で整容のお手伝いや声かけ、また、外出の際は出来る限りご本人と一緒に着る服を決めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食事の準備、後片付けなどを行っている。また、それ以外にも、ご飯の炊ける匂いやみそ汁の匂い、時折、旬の食材を使うなどし、食事や季節感の演出を意識して行っている。	厨房で主な副食を調理しており、各ユニットではご飯と味噌汁を作っている。利用者は能力に応じ味噌汁の具材を切ったり、盛り付けや後片付け等職員と共に行っている。事業所の敷地内に菜園があり、旬の食材を一緒に収穫している。2ヶ月に一度、フロア食として各ユニットでバイキング等をしたり、毎年忘年会に家族会と事業所が協力して利用者を交えて全員が鍋料理を囲み楽しんでいる。また、手作り弁当をもって花見に出かけて食事の変化を楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は全員の方の分を、水分量は必要な方のみチェック表をつけて摂取量に配慮している。食事量に関しては、小食な方や糖尿病、体重増加に配慮のいる方の量の調節を行ったり、摂取し易いようにや喉詰めに配慮し、お箸やスプーンの大きさを考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はおこなえておらず、随時対応をしている。ナイトケア時は必ず実施し、義歯を使用されている方は夜間、義歯洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方に関しては排泄チェック表にて、排泄パターンや排便状況について確認を行っている。排便の有無は全員毎日チェックし、必要に応じて下剤の調節を行っている。日中は、トイレでの排泄を行っている。	排泄の自立支援のため排泄パターンをチェックし尿漏れショーツ、リハビリパンツ、パット等日中はうすいもの使用するなど個人によって工夫している。排便は個人によってファイバー食、水分、腹部マッサージ、薬等でコントロールをしている。夜間はポータブルトイレや利用者により夜中でも数回のトイレに付き添い、介助を行うなど個別に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価（せせらぎ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ファイバーやココアを使用し、朝一番で飲んで頂き、排便を促すようにしている。また、下剤の量を滞便日数に応じて随時調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午後から入浴して頂く事が殆どだが、ご本人の必要に応じて午前中に入っている事もある。また、入浴のタイミングについては、声掛けを行った中で、ご本人と相談しながら行っている。安心して入浴して頂ける様、ご家族にもご協力して頂く事も有る。	入浴の基本は週2回午後としているが、午前中や寝る前でも利用者の希望やタイミングにできるだけ合わせて支援をしている。基本は同性介助としているが、希望時間によって困難な時もある。浴室は個浴で歩行困難な利用者には2人介助で行い、入浴を拒む方には家族の協力を得て支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、夜間の睡眠リズムの乱れにならないよう配慮しながら、休息したい時に自由に休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作成し、服薬内容（用法・用量）について表示しているが、薬の目的や副作用についての理解度は職員個人個人での差があり、看護師任せになっている部分がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族との会話の中から持てる力を発揮できる機会作りを行っている（家事活動や趣味など）。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望時は出来る限りご家族の協力も得ながら対応している。また、フロア独自でも遠足に出掛けるなどの行事を企画し、楽しめるような外出の機会をつくっている。	遠くの外出は家族の協力を得て行っている。利用者の中には、毎日買い物の外出支援している方もいる。公園での夜桜見物には利用者全員と出かけたり、地域の敬老会、運動会に参加するなどの外出支援をしている。また重度化で外出が困難な時には事業所の庭や菜園に出て外の空気に触れ気持ちよく過ごせるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価（せせらぎ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理面では、全員分のお小遣いをお預かりしている。支払いが可能な方に関しては、支払い時にお財布をお渡しし、ご自身で払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族へ向けにお手紙を書かれる方のレターセットを準備したり、年初めには、入居者と職員で一緒に作成した年賀状を、ご家族へお送りしている。入居者の希望時や、ご本人に電話がかかってきた際、ステーション内の電話を使用して頂く事が有る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の体調や気分、状況などに合わせ、ラジカセで音楽を流したり、好みのテレビ番組を流すようにしている。庭で菜園している花を花瓶に生けたり、冬至にはゆず湯、ひな祭りには雛人形を飾るなどし、季節感を感じていただけるよう工夫している。	各ユニットのエレベーターホールには大きなガラス窓があり、その前にソファ・テーブルや本棚を置いて一人で過ごせる明るい空間がある。壁面には利用者が書いた習字や絵を飾り、ユニット出入り口には季節の花を生けている。居間兼食堂には対面式キッチンがあり、窓側のテレビの前にテーブルとソファを配置している。時々ラジカセの音楽が流れ利用者は居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自身で選ばれた落ち着いた場所で過ごされる時間を大切にしていると共に、落ち着いた環境作りに関しては、好きな音楽をかけたり、日差しのまぶしさ等の視覚への不快感に配慮する等している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にて使用されていた馴染みの家具を使用したり、転倒の危険性のある方へはカーペットを敷き、家具の配置はご本人は勿論のご家族共相談しながら、居心地よく過ごして頂けるよう配慮している。	居室にはトイレ、洗面所が設置され、ベッド、カーテン、エアコンは備え付けで、使い慣れた整理タンスや机、椅子、テレビ、家族の写真つきカレンダー等を持ち込み、居心地よく過ごせるように配慮している。窓からは事業所の菜園や庭の木々が見え開放感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	異食で命に関わる危険性のある物の保管場所を配慮し、危険だからと過剰な排除を行わず、生活感ある環境作りを心掛け見守りで出来る範囲とお手伝いの必要・不必要の見極めを行うよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（せせらぎ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
V アウトカム項目					
56		職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○		①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○		①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○		①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価（せせらぎ）		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
64		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない	
65		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	
66		職員は活き活きと働けている	○		①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
67		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
68		職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない	

自己評価	外部評価	項目	自己評価（そよかせ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針会議を通じて、ホームとしての理念に基づいた支援、取り組みができるよう努めている。また、中間統括・総括と年2回振り返りを行うなかで、意識の向上を図っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、他事行書行事に参加したり、ホーム行事に招き地域との交流に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地位住民の方から、講習会以来や施設見学の要望がある時は、進んで引き受けるようホームとして取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災に関する協力依頼など、間接的サービス向上に運営推進会議を活用しています。年度途中ではあったが、市職員参加することになりました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	吹田市の連絡部会を通じて、市の担当者と日頃から連絡をとり、関係づくりに努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアの実践について学ぶ機会を通じて取り組んでいます。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を通じて学んだり、日頃のケアの中で見過ごされることが絶対似ないよう啓発に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（そよかせ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性が生じたときには関係者と話し合い、活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に関しては、契約時に説明を行い納得が得られるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望が日頃から話しやすい関係作りに努め、必要が生じたときの連絡先を表示するなどして、健全な運営の反映に努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	主任会議、運営会議、全体会議、フロア会議の場で意見や提案を出してもらい、話し合いを通じて、日頃の運営に繁栄されるよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の面談を通じ、その時々職員が抱える課題、問題に耳を傾けています。その上でここにあった提案、助言を心がけています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外における研修情報を提供し、積極的に参加するよう促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	連絡部会を通じて、情報交換を行いネットワーク作りに努めています。今年度は、ターミナルケアの学習会を開催し、他部会に参加を呼びかけました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（そよかせ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には自宅を訪問し、聞き取りを行った上で、安心した生活を送って頂けるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には自宅を訪問し、聞き取りを行った上で、安心した生活を送って頂けるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前には自宅を訪問し、聞き取りを行った上で、安心した生活を送って頂けるように配慮している。本人家族が職員に話しかけやすい関係であるように、面会時必ず声を掛けるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人本位のケアとなるよう、意思表示の出来る方は、出来る限り思いに添えるよう努め、意思表示の困難な方は、ご本人の立場に立った視点でケア内容を考えています。また、家事は、スタッフばかりで行うのではなく、入居者さんのお力を借りながら、共に行うよう努めています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時のコミュニケーションを大切にすると共に、ご本人にとって良いケアとなるよう、ご家族と相談しながら行っている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で使用されていた家具をたんぼぼでも使用し、住み慣れた自宅と雰囲気近づけられるよう努めたり、ご家族の面会やそれまでの友人関係が途切れないよう、面会を歓迎し、ゆっくりと過ごせる環境作りに努めています。また、ご家族の協力を得ながら、自宅に帰る機会や外出の機会を持てるよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（そよかせ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の自然な会話にはあえてスタッフは入らずに、入居者同士だけで関わる時間を大切にしています。また、食事席を隣席にしたり、共に外出するなどして入居者同士が良好な関係を保ったり、築いてゆけるよう配慮しています。お互いを名前で呼び合えるように意識して関わっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、次の入居施設へ面会へいたり、何か相談があった場合には、必要に応じ、出来る限りの対応をさせて頂いています。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示可能な方には出来る限り思いに添えるよう努め、意思表示困難な方には、本人本位の視点でケアに当たっています。また、センター方式シートを使用し、情報共有を行っています。本人本位の視点を忘れないために、職員間で学習を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	センター方式のシートを使用し、情報共有を行っています。家族にも話を聴きながら、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを使用し、情報共有を行っています。また、日々の変化に注目し、職員間で、意見を出し合えるように、連絡帳の活用をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式のD-1シートにてアセスメントを行い、毎月1回のフロア会議にて個々のケアについての話し合いを行うと共に、毎日11時～カンファの時間を短時間ではありますが、設けるようにしています。個人の連絡帳を使い、意見交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（そよかせ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、日々の様子や特記事項を記入し、ケア内容の変更については、個人連絡帳やモニタリングシートで確認しています。また、カンファレンスが必要と思うことを出し合い、ミーティングや会議で話し合いを行っています。職員間での情報共有がしやすいよう日誌のカンファ欄で報告をし、カンファレンスファイルに記録しています。実施していくケア内容が文章として残るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、家族の生活状況の把握にも努めながら、その時々ニーズにできるだけ合わせ、話し合いを通して柔軟な支援に努めている。入居者の状態に合わせて個別に訪問看護を利用することもあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に買い物や外食に出掛けています。季節に合わせて、散歩のコースを変えたり、食べるものを買に行ったりとしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、昔からの馴染みのDr、事業所の提携している診療所のDrと自由に選択して頂いています。ターミナルにあわせても、家族の意向に沿って対応しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師の出勤している平日は朝の申し送りに加え、必要時に随時伝えています。日誌の医療欄での情報交換も行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、こまめに面会に訪れ病院の看護師との情報交換を行ったり、ご家族との情報交換も行っています。また、退院時は事前に病院にて看護師との情報交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（そよかせ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての施設としての指針を、入居時にご説明し、サインを頂いています。また、体調面での変化が見られる場合は、早い段階から現状や今後考えられる症状をDrから直接ご家族へご説明し、その中で対応についての方針をご家族と共に考えています。ユニット間を越え、施設全体で支える仕組みになっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを作成しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員を対象に定期的に非難訓練を行い、安全に利用者の非難が出来る様努めている。また今年度は地域の消防担当者参加の訓練や家族会の協力を得ながら協力体制強化を行った。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方針に掲げ、意識するよう努めています。また、中間統括・総括と年2回振り返りを行うなかで、意識の向上を図っています。職員間で注意できる関係性作りを大切に行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からのコミュニケーションを大切にする中で、信頼関係を築き、思いや希望を言いやすい場面作り・環境作りに努めています。時間を見つけては、1対1の会話も大切にじっくりと話せるよう心がけています。希望を実現するシステムとして、連絡帳や記録に発言内容を残すようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（そよかせ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調面に配慮しながら、ご本人のペースを大切にしています。出来る限り希望に添えるよう努めています。言葉かけや介助にあたる時の言葉使い等も、強制的、威圧的にならないように、職員間で確認し合っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や離床時など、顔の清拭をしっかり行い、髪や服装の乱れが無いよう配慮しています。季節感も大切にしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事の盛り付け・洗い物等、入居者主体で行い、職員は補佐役に徹するようにしています。食事やおやつ作りの際は、入所者・職員が共に行うようにしています。季節に合わせてユニット独自で調理することもあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は全員の方の分を、水分量は必要な方のみチェック表をつけて摂取量に配慮しています。食事量に関しては、小食な方や体重増加に配慮のいる方の量の調節を行ったり、摂取し易いようにや喉詰めに配慮し、お箸やスプーンの大きさ、食器などは個別対応などし、考慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行っていません。随時対応しています。ナイトケア時は必ず行っています。必要に応じて、毎回の方もおられます。歯科に相談し、指導していただくこともあります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方に関しては排泄チェック表にて、排泄パターンや排便状況について確認を行っています。排便の有無は全員毎日チェックし、必要に応じて下剤の調節を行っています。日中は、トイレでの排泄を行っています。パッド、おむつ使用に関しては、しっかりと職員で議論を行います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（そよかせ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に意識しています。排便の様子に応じて下剤の量を随時調整しています。また日ごろの腹部の状態変化の把握ができるよう、腹部の張りなどをさせて頂いています。個別で湯たんぽなどを使用することもあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	特定の日を決めずに、間隔を見ながらお誘いしています。また、ほぼ自立の方は希望に沿って夕食後に入って頂いています。入浴のタイミングについては、声掛けを行った中で、ご本人と相談しながら行っています。排泄の失敗時なども、間隔に関係なく入浴して頂けるように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、夜間の睡眠リズムの乱れにならないよう配慮しながら、休息したい時に自由に休息して頂いています。布団や室温の調整にも注意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作成し、服薬内容（用法・用量）について表示しているが、薬の目的や副作用についての理解度は職員個人個人での差があり、看護師任せになっている部分があります。誰もが同じ対応ができるように書面でまとめるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族との会話の中から持てる力を発揮できる機会作りを行っている（家事活動や趣味など）。役割に意識して、入居者とかかわり、話す機会を増やしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望時は出来る限り対応しています。行けない時は事情を説明し、次行ける時をなるべく約束するようにしています。また楽しみの外出は、ご本人が希望された場所にお連れ出来るよう、日ごろの会話に出た場所などを記録に残せるようにしています。季節に合わせた場所へのお誘いも行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（そよかせ）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理面では、全員分のお小遣いをお預かりしています。それとは別に、個人で所持されている方もいらっしゃると思います。また、管理は困難でも支払いは可能な方に関しては、支払い時にお財布をお渡しし、ご自身で払って頂いています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の希望があれば随時対応させて頂いています。ご家族にも了解を得ています。また、届いたはがき等は代読させて頂き、希望があれば返事を書いて頂いています。年賀状も共に作成します。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングでは、TVやCDラジカセの音量に気を付け、家事活動時の物音や職員の話し声に注意しています。また、お正月・桃の節句時など季節を感じて頂けるよう、フロアの装飾を工夫しています。整理整頓にも心がけています。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>2階フロア全体を利用しご自身で選ばれた落ち着ける場所で過ごされる時間を大切にしていると共に、落ち着ける環境作りに関しては、好きな音楽をかけたり、日差しのまぶしさ等の視覚への不快感に配慮する等しています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅にて使用されていた馴染みの家具を使用したり、転倒の危険性のある方へはご家族と共に話し合いながら家具の配置など工夫しながら、居心地よく過ごして頂けるよう配慮しています。馴染みの配置も大切にしながら、ご本人の状況に応じて安全を考えた配置変更をしています。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>異食で命に関わる危険性のある物の保管場所を配慮し、危険だからと過剰な排除を行わず、生活感ある環境作りを心掛け見守りで出来る範囲とお手伝いの必要・不必要の見極めを行うよう努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（そよかせ）		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
V アウトカム項目						
56		職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○		①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○		①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○		①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない	

自己評価	外部評価	項目	自己評価（そよかせ）		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
64		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない		
65		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない		
66		職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない		
67		職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない		
68		職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針会議や、毎月の7フロア会議を通じて、ホームとしての理念の理解を深めそれに基づいた支援・取り組みが出来るよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、ホーム行事に招いたり、普段の散歩時のあいさつを励行したり地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方から、講演会依頼や、施設見学要望がある時には、進んで引き受けるようホームとして取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災に関する協力依頼など、間接的サービス向上に運営推進会議を活用しています。年度途中ではあったが、市職員参加することになりました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	吹田市の連絡部会を通じて、氏の担当者と日頃から連絡をとり、関係づくりに努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアの実践について学ぶ機会を通して取り組み身体拘束をしないケアについて、職員カンファレンスを通して実践に努めている。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を通して学んだり、日頃のケアの中で見過ごされる事が絶対ないよう啓発とケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性が生じた時には関係者と話し合い、活用できるよう支援している。また学ぶ機会も大切にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族と日頃より話し合いを持つことで、抱えている不安や疑問に対しても、細やかに説明を行うように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望が日頃から話易い関係に努め、必要が生じた時の連絡先を表示するなどして、健全な運営の反映に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	日頃のケア現場でも、意見が言いやすい関係に努め、毎月のフロアー会議、3か月に1回の全体会議、2ヶ月に1回の常勤会議を開き、その場で意見や提案を出してもらい話し合いを通し、日常の運営に反映されるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に、個人面談を行う事やレポート提出により、仕事に対する思いや、提案、意見等を聞き取り、それらの尊重により向上心を持って働けるように心がけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの働く姿勢や、実践に細かく目を向け、それに合わせて研修参加や学ぶ機会の確保が出来る様に、管理者に働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交流の機会にはできるだけ参加しネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じてのサービスの質の向上の取り組みに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護計画の立案時、更新時には必ず本人の思いが聞き取れるよう時間をとり、より安心していただける事を一番にサービスに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	思いが十分伝えにくい本人の代弁者としての家族の要望にしっかり耳を傾け、本人・家族共に安心して暮らせる為の関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状態をしっかりアセスメントし、本人の要望を大切にに必要なサービスとケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にするという視点を大切にすなかで、職員も困りごとを相談したり、意見を聞いたりして、人生の先輩として敬う姿勢が築ける様、努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を共に支える良い関係作りのため、日頃の面会時や行事等の時間を大切にコミュニケーションを深めるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の言葉に、耳を良く傾け、家族からも日頃の様子を聴き大切な馴染みの人や物との関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格、思いを良く見極め、出来るだけ係わり合いが円滑に行われ、馴染みの関係となれるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの色々な場面を通して、思いや希望が話しやすい様な言葉掛けを心がけ、困難な場合は、日頃の様子から本人の立場で検討し、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時のアセスメントシートに加え、今までの暮らし方、生活環境について、日頃の会話の中からも、出来るだけ詳しく聞き取りを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方のペースを尊重し、心身の状態や有する力の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のチームケアを通して、スタッフ、本人、家族、医療関係者の意見を、本人がより良く暮らす為の課題に集約して、できるだけ現状に即した計画となる様努め、本人がより良く暮らせる様支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の見直しの際、個別記録に記入された日々の様子やケアの実践、又別に気づき表を作成し、情報共有に努めよりきめ細かいケアの実践に、活かす様心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、家族の生活状況の把握にも努めながら、その時々ニーズにできるだけ合わせ、話し合いを通して出来るだけ柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の介護相談員、喫茶、唄体操、清掃等ボランティア資源を受け入れ、より安全で豊かな暮らしを楽しんでもらえるよう支援につとめている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要な状態と判断されたり、本人、家族の希望時など、かかりつけ医や必要な専門医に受診、そのつど適切な医療が受けられるよう連絡調整を行い支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日常のケア、特に入浴介助等での気付きや、本人の様子や訴え等、病状の変化を速やかに看護職員に伝え相談し、必要な処置や適切な受診が出来る様に連絡調整を行い支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時は、ホームの看護職員と協力の上、情報提供を行い、出来るだけ早期の退院にむけて病院関係者との情報交換や相談に努めている。またふだんから、そうした場合に備えて病院関係者との連携も心掛ける様努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化や、終末期のあり方については、本人の様子や訴え等、変化に合わせて少しずつ早目に主治医からの説明の機会を設け家族、本人と話し合い方針を共有し、事業所で出来ることの説明と訪問看護等地域の関係者とも連携した取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から、利用者の急変や事故発生時に備えての勉強会や、訓練を定期的に行い応急手当や救急対応への実践力がすべての職員に身につく様努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員を対象に定期的に非難訓練を行い、安全に利用者の非難が出来る様努め、地域の消防担当者参加の訓練や家族会の協力を得ながら協力体制強化を築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの姿、言葉に耳をかたむけ、誇りやプライバシーを大切に、暖かく丁寧な支援を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のあらゆる場面で、利用者の思いや希望が聞ける言葉掛けを行い、出来る限り自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの日々の体調やペースを大切にしながら、できるだけ希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身につける衣類や、外出時の持ち物など、できるだけ本人と話し合い決めるようにしたり、おしゃれにも気づかいした支援を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に、それぞれの能力や希望に合わせて食事の準備、調理、後片付けを分担して行っている。今年度も季節毎に食べたい物を話し合い決めた献立一緒に調理を行い、おいしく楽しんだ。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの、状態や好み、起床時間や習慣に合わせた食事が取れる様支援しながら、食事量、水分量確保にも注意した支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、あるいは寝る前に本人の力に応じた口腔ケアが出来る様支援したり、定期的歯科往診を利用し、良好な口腔状態が保てる様に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの力や、希望、習慣を良く見ながら排泄パターンをつかみトイレでの排泄を大切にしたり、又自立に向けた支援をおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のメカニズムを学び、理解のうえ個々に応じた、薬のみに頼らない排便コントロール心がけ予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯を決めることなく、一人ひとりの希望や体調、その時々タイミングで個々に応じた入浴を楽しめるような支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの今までの習慣、その時々状況、前日の睡眠時間等考慮し、安心して休息したり、安眠できる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療関係者と協力し、用法用量の理解のうえ確実な服薬支援に努め、症状の変化の確認や副作用についても注意した対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしさを大切に、張り合いがあり、喜び多い毎日の創造を目指した生活支援を心がけ取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にできるだけ添えるようその日その日の調整を行い戸外に出かけられるよう支援に努めたり、普段はなかなか行けないところでも、職員、家族と協力体制を整え、実現をめざし支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員の理解を深め、一人ひとりの希望や力に応じてお金を持って使えるよう支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	一人ひとりの、家族や大切な人への思いをくみとり、電話や手紙・写真を添付等を通して思いが通じるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい、不快な刺激のできるだけ少ない落ち着ける共用空間作りを行うよう配慮している。普通の家雰囲気や、季節感を大切にしたり、ベランダで花や果物の栽培をして、水やりを役割としている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの思いを大切に、共用空間の中でも独りになったり、好きな場所で気のあった者同士でゆっくりできる居場所の工夫も行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら、居室は必ず使い慣れた物や好みの物でそろえ、居心地良く安心して過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を勘案の上、安全を考えつつ、できるだけ自由に自立した生活が出来る様工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ひだまり）		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
V アウトカム項目						
56		職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○		①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○		①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	

自己評価	外部評価	項目	自己評価（ひだまり）		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○		①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない	
64		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない	
65		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	
66		職員は活き活きと働いている	○		①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
67		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
68		職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない	